

平成 30(2018) 年度第 2 回県西地域医療構想調整会議会議記録

- 1 日 時 平成 30(2018) 年 12 月 18 日 (火) 19 時から 20 時 45 分
- 2 場 所 栃木県庁上都賀庁舎 5 階大会議室
- 3 出席者 県西地域医療構想調整会議委員(別紙のとおり)  
栃木県医師会 太田会長 (地域医療構想アドバイザー)  
事務局

4 議事

(1) 地域医療構想調整会議等の今後の進め方について

県西健康福祉センター大塚所長補佐兼総務企画課長から、資料 No 1 により説明し了承された。

【主な質疑】

(新沢議長：上都賀郡市医師会長)

8 ページからの「今後の進め方(案)③」の③診療科や診療報酬等の区分による病棟の機能区分の検討についてであるが、急性期と回復期をどうして分けなければならないのか。急性期で入院した患者が慢性期で退院したような場合についてどのように考えればよいのか。塩原温泉病院の場合は、回復期病棟とリハビリ病棟に分かれており、回復期病棟が空いていても、リハビリ対象の患者が入院することはなかった。通常であれば、急性期や慢性期の病棟が空いていれば患者を入院させるが、それぞれの診療報酬には違いがあるのでどのように考えればよいのか。

(十川委員：上都賀総合病院院長)

病棟ごとの区分についてであるが、上都賀総合病院では病棟毎に 1 チームを配置し看護師等を厚く配属してあり、同じような疾患の入院患者を集めるようにしている。上都賀総合病院として、まずは重症患者が入院できることを前提に考えており、病院全体としてみれば、入院基本料 7 対 1 になる。それを分解して考えようとするとなかなか難しくなってしまう、結局は、病棟の中の一部は重症患者が受け入れられるという結論になってしまう。

(事務局：医療政策課)

県内の各地域医療構想区域で、医療機関に対する意向調査や公的医療機関等 2025 プランを作成していただいたが、現在のところは、他の医療機関の状況や意向が全くわからない状況で記入してもらった段階である。今後の地域医療構想調整会議等で他の医療機関の状況や意向を理解した上で、各医療機関が今後どのようにしていくかを再検討することができる。

病床機能の区分については、これからの各医療機関の役割分担を検討する上で、現在の役割や機能を土台にして検討しようと考えている。そうしたことから、現在の病床の機能を客観的に表現できる方法はないかと考えた。まずは、議論が少ないところから、病床機能の考え方を固めていきたいと考えているが、これにより、各医療機関の今後の意向を縛るものではない。

(2) 県西地域医療構想における課題について

県西健康福祉センター小林副主幹から、資料 No 2 により説明し了承された。

【主な質疑】

(相馬委員：鹿沼歯科医師会会長)

18 ページ在宅医療圏の現状に記載された歯科診療所の施設数はどのように調査したものか。

(事務局：県西健康福祉センター)

昨年度、すべての医療機関や介護機関を対象に調査したもので、歯科診療所については、地区歯科医師会を通して歯科診療所に調査を依頼し、各診療所から回答があったものを基にまとめたものであり、地区歯科医師会で把握している施設数とは異なる可能性がある。

(塩入委員：鹿沼市男女共同参画社会づくり実行委員会会長)

16 ページの季節による入院患者数の変動では、冬季に入院が多くなる患者の主な疾患は何か。

(十川委員：上都賀総合病院院長)

冬季に増える入院患者の疾患としては、内科の入院で肺炎が多い。これは日本全国どこでも同じ現象が起きている。高齢者が多く、どうしても入院期間が長くなる傾向がある。病院の医療従事者勤務の体制を冬季に合わせると、夏季には入院患者が減少し、医療従事者が過剰になってしまう。具合が悪くなればすぐ入院できるのが理想だが、実際にどのくらいを規準に考えるか、これだという正解は無く非常に難しい。今後は、患者として人生の最終段階をどのように迎えるか、そのために医療機関がどのようなことができるかという問題にもなってくる。肝心なときに病院が満床で入院できないということもあるので、どのような患者を急性期医療機関で受け入れるべきなのかを地域で考えるべきだと思う。

(塩入委員：鹿沼市男女共同参画社会づくり実行委員会会長)

夏季は、気温が高くなるが、熱中症の患者はどうか。

(十川委員：上都賀総合病院院長)

今シーズンの夏季は多かったが、昨シーズンは少なかった。気候により大きく変動するのは、冬季と同様であり入院患者の疾患に如実に表れる。

(福田委員：鹿沼市特別養護老人ホーム連絡協議会会員)

12 ページのドクターヘリ地区別出動状況では、栃木市が著しく件数が多いが、どのような理由か。

(事務局：県西健康福祉センター)

ドクターヘリの基地は獨協医科大学病院となっている。

地区別出動状況の区分は、消防本部単位となっており、栃木市消防本部の管内では、とちぎメディカルセンターしもつがが、脳卒中等に対応できる急性期病院である。栃木市の中心部以南を主に担当しているメディカルセンターしもつがが満床になると、獨協医科大学病院にドクターヘリで移送することが多くあるということである。

(新沢議長：上都賀郡市医師会長)

議題に出されたように県西地域の医療については、様々な課題があるが、少しでも解決できるよう今後も議論をお願いしたい。

(3) 医療機関に対する意向調査について

県西健康福祉センター小林副主幹から、資料 No 3 により説明し了承された。

【主な質疑】

(新沢議長：上都賀郡市医師会長)

医療機関に対する意向調査の内容に追加や変更したい場合にはどうするのか。

また、本日出席していない医療機関にはどのように伝えるのか。

(事務局：県西健康福祉センター)

追加や変更については、今のところ随時受け付けている。また、本日出席していない医療機関については、まずは、平成31年2月に予定している医療データ活用セミナーにおいて説明する予定である。

(十川委員：上都賀総合病院院長)

この資料は、この地域の調整のためだけに使うものなのか。

(事務局：医療政策課)

医療機関に対する意向調査は、栃木県で行っているものであり、地域医療構想調整会議等での議論に限定して活用することとしている。

(新沢議長：上都賀郡市医師会長)

様々な医療機関があるので、医療機関内の情報を出したくないところもあるのではないかと。

(事務局：医療政策課)

現在の医療機関の状況としては、病床機能について国の病床機能報告には様々なデータを報告していただいているところである。将来の医療機関の意向としては、医療機関に対する意向調査を活用したいと考えているが、それらのデータを集計して何かと突き合わせてどのようにするということはない。病床機能報告と医療機関に対する意向調査については現状におけるデータとしては整合性をとるようにお願いしたい。

#### 4 情報提供

(1) 日光地域の医療連携に関する勉強会について

医療政策課田中主査から、情報提供資料により説明した。

【主な質疑】

(大久保委員：上都賀郡市医師会副会長)

地域医療連携推進法人について、かなり進んだという印象を持った。この資料の中で、進捗状況を理解する上では、どのような項目にどの医療機関が賛成でどの医療機関が反対か説明があったがほうよい。また、個々の医療機関の参加については、医師会を通して意思表示を行うことになるのか。

(事務局：医療政策課)

地域医療連携推進法人の連携事業の項目の中で、①医療連携推進方針に定める医療機能の分担、業務の連携については、現在の診療報酬体系を基に、人口減少が進んだ場合を想定し、患者紹介・逆紹介については、多くの病院から賛同を得ている。

また、個々の医療機関の参加については、日光地域の勉強会において診療所部会において検討している。

(新沢議長：上都賀郡市医師会長)

現在のところ、法人の参加については日光地域の医療機関に限定して発足する方向になっている。日光地域の医療連携に関する勉強会においては、勉強会を5回、その他に急性期部会・回復期慢性期部会・診療所部会・実務者協議会が開催されており、各医療機関が活発な議論を行っている。自分自身としても上都賀郡市医師会を代表して8月から参加している。これらにより、日光市内でこれまで行われていなかった、病院間や病診間の協議の場ができたことは大変有意義なことだと思っている。これから予想される日光地域の人口減少と少子高齢化に対しては、医療機関単独で対応できる限度を超えているので、医療機関同士の連携が大変重要になっている。

こうした状況の中で、引き続き勉強会を開催していくこととなるが、地域医療連携推進法人の設立も視野に入れながら、将来の日光地域の医療提供体制の維持確保について協議が行われるよう医師会としてもできるだけの協力をしていきたいと考えている。

(太田地域医療構想アドバイザー：栃木県医師会長)

3年前に、人口減少が著しい日光地域で地域医療連携推進法人を設立し、その中で病院間や病診間で協議を進めてはどうかという話が持ち上がった。実際には、地域医療連携推進法人のメリット・デメリットに対する不安がないわけではない。しかし、法人に参加し、連携事業の中でどのようなことを行うか医療機関が自分で選択することができるので、日光地域の医療の提供体制とともに、介護サービスの提供体制も検討していくことができる。

日光地域を考える上で、病院の集約化や足りない機能をどうするか、住民の病院受診に対する意識改革をどのように啓発するか、ドクターヘリも整備され道路状況も非常によくなっているということも含めて検討いただきたいと考えている。上都賀郡市医師会も参加できるので、法人に参加していない医療機関の意見も反映できるような仕組みを作ってもらいたい。

また、議題にも出されていたが、病床の稼働率をどうするかという問題は病院の経営に直結する問題であり、経営が成り立たなければ、地域の医療が崩壊することになる。地域にとって、どのような病床が必要かを数字にとらわれずに考えなければならない。回復期が足りないとされているが本当にそうなのか、すべてを地域で完結するというのではなくどのような医療が必要か、診療報酬体系も検討しどうするかというのを考えなければならない。

会議の中では、医療機関以外の委員から発言があったのは非常によかった。住民の方から、将来の自分の在宅医療や介護についてはどうなるのかという意見を発言していただくことが非常に重要だ。

(新沢議長：上都賀郡市医師会長)

県西地域の住民が安心して暮らしていくためにはどのようにすればよいか、このような会議で検討するとともに、地域医療連携推進法人の勉強会も通して今後とも検討していく必要があると感じている。

平成30(2018)年度第2回県西地域医療構想調整会議 出席者名簿

【委員】

平成30(2018)年12月18日

選出区分	団 体 名	役職名	氏 名	備考
郡市医師会	一般社団法人 上都賀郡市医師会	会長	新沢 敏章	
郡市医師会	一般社団法人 上都賀郡市医師会	副会長	大久保 昌章	
地区 歯科医師会	一般社団法人 鹿沼歯科医師会	会長	相馬 英人	
	一般社団法人 日光歯科医師会	会長	中村 雅夫	
地区 薬剤師会	一般社団法人 鹿沼薬剤師会	会長	下妻 和彦	
	一般社団法人 日光市薬剤師会	会長	和貝 益男	欠席
看護協会 地区支部	公益社団法人 栃木県看護協会	理事	駒場 悦子	
医療機関	上都賀総合病院(公的医療機関)	院長	十川 康弘	
	獨協医科大学日光医療センター	統括管理者	中元 隆明	
	御殿山病院	院長	波木 道夫	欠席
	今市病院	院長	熊谷 真知夫	
	鹿沼病院	院長	駒橋 徹	
老人福祉	鹿沼市特別養護老人ホーム連絡協議会	会員	福田 英夫	
老人保健	栃木県老人保健施設協議会	会長	矢尾板 誠一	欠席
介護関係	特定非営利活動法人 とちぎケアマネージャー協会	理事	飯野 範子	
	栃木県地域包括・在宅介護支援センター協議会	理事	千葉 加代子	
住民・患者	鹿沼市男女共同参画社会づくり実行委員会	会長	塩入 佳子	
	日光市手をつなぐ育成会	会長	柳田 友一	
市	鹿沼市保健福祉部	部長	早川 綾子	
	日光市健康福祉部	部長	矢嶋 尚登	
保険者	全国健康保険協会栃木支部	企画総務部長	若林 卓成	
学識経験者	獨協医科大学公衆衛生学講座	教授	小橋 元	
保健所長	栃木県県西健康福祉センター	所長	塚田 三夫	

【地域医療構想アドバイザー】

一般社団法人 栃木県医師会	会長	太田 照男
---------------	----	-------

【事務局】

所属・職	氏名
栃木県保健福祉部保健医療監	海老名 英治
〃 医療政策課長	吉澤 敏広
〃 主幹	渡辺 晃紀
〃 課長補佐	工藤 香織
〃 係長	松島 靖幸
〃 主査	田中 一齊
〃 主査	鈴木 隆仁
栃木県県西健康福祉センター次長	飯田 良雄
〃 所長補佐兼総務企画課長	大塚 良仁
〃 所長補佐兼福祉指導課長	檜山 浩
〃 所長補佐兼健康支援課長	渡邊 悦子
〃 所長補佐兼健康対策課長	一色 ミユキ
〃 総務企画課副主幹	小林 明男
〃 総務企画課副主幹	黒岩 幹枝
〃 総務企画課主事	星井田 彩季
栃木県今市健康福祉センター 主幹兼所長補佐(総括)	福田 亮人